



諏訪湖における過去1万6000年間の水位変動を解明 —諏訪湖の水位、世界的な気候変動に応答した可能性—

長野県環境保全研究所は、信州大学との共同研究により、諏訪湖で掘削された堆積物コアを用いて、諏訪湖の過去1万6000年間の水位変動を解明し、気候変動との関連を明らかにしました。本成果は、2024年4月12日付で学術誌「Geomorphology」にオンライン掲載されました。

【研究の概要】

- 最終氷期末（約1万6000年前）以降の諏訪湖の水位変動を解明しました。
- 諏訪湖で掘削された堆積物コアを調べたところ、諏訪湖の水位は数百～数千年ごとに上昇・低下を繰り返していたことが明らかになりました。
- 約1万2000年前と8000～7000年前には大きな水位低下が生じました。この時期は世界的な寒冷期にあたり、東アジアで乾燥化がすすんだタイミングと概ね一致しています。そのため、これらの水位低下は降水量の減少に起因すると考えられます。
- 本研究は、中部日本の内陸湖の水位変動が、世界的な百～千年スケールの気候変動に応答した可能性を示します。

【研究の意義】

- 本研究の成果は、現在～将来の気候変動により、日本列島の内陸湖の環境がどのように応答するのか、百～千年スケールで予測していく上で重要な知見になると考えられます。

詳細は、別紙（共同プレスリリース資料）をご覧ください。

本研究は、（公財）アサヒグループ財団、（公財）河川財団、（公財）住友財団、およびJSPS 科研費（20K04104, 18KK0096）の支援を受けました。

掲載論文（英文要旨）のURL：<https://doi.org/10.1016/j.geomorph.2024.109194>



掘削された堆積物コア
（掘削長：30.0 m, 最深部の年代：約2.6万年前）



〔長野県は「SDGs 未来都市」です〕

SDGs（持続可能な開発目標）は、美しく、誰もが安心して暮らし続けられる社会をめざし、世界みんなで取り組む目標です

（問合せ先）

環境保全研究所 自然環境部（飯綱庁舎）

（担当）葉田野、浜田

TEL 026-239-1031（代表）

FAX 026-239-2929

E-mail kanken-shizen@pref.nagano.lg.jp

環境部 環境政策課 企画経理係

（担当）馬島、松沢

TEL 026-235-7169（直通）

FAX 026-235-7491

E-mail kankyo@pref.nagano.lg.jp